



## シリコンバレーや世界先端性という挑戦

令和6年5月11日

クロダイインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

独創性という創造性は、世界先端性への到達を可能とする。しかしソフトの進歩と企業への理解を基盤とない限り、これ等は虚ろである。

独創性や先端性は理解の進歩において存在するのである。製品や企業経営は、底辺からその頂点まで、理解の進歩において優れた自己を得るのである。

すべての先端性は独創性から生み出された結果なのである。これらは理解の重ねという企業のソフト資産が、新しい基準と独創性において飛躍を得ることは必ず可能なのである。

また、企業努力が結果を生み出すならば、それにおいて頂点へ至ることも可能である。

これらは時代性という変化において企業の振り分けと、新しい挑戦を与えるものである。

変化の時代という言葉は今日正しい。新しい変化や基準は未来を形成しているのである。

これらが既存現実や価値観を完全に崩壊させているのである。この変化はチャンスでもあるのである。

グローバルゼーションという潮流において、世界各地でその変化は存在し新しい挑戦者たちは未来の創造を提案するのである。

これらは、新しい現実であり、企業においてそれら変化は不可避の現実なのである。

これらは今日企業において正しい理解であり、経営判断においてこれら理解は新しい未来を企業において可能とするものである。

これらは新しい企業への転換をその可能性とともに行うべきであるという判断は正しい。変化は他方においてチャンスなのである。

変化は新しい未来であることは忘れてはいけない。

